

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470101496		
法人名	医療法人 善昭会		
事業所名	グループホーム菜の花(1F)		
所在地	大分市東鶴崎3-1-6		
自己評価作成日	平成21年10月28日	評価結果市町村受理日	平成21年12月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ap.oita-kaigo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4470101496&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成21年11月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かで落ち着いた住宅地に立地し、環境的にもとても恵まれている。母体の医療機関や老健と併設しており、緊急時の対応も万全である。開所後10年目を迎え、地域との関わりやホームの雰囲気も独自のあたたかいものが、出来きたと思う。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・利用者や職員が自然体に過ごしており、その人らしい暮らしが出来ている。一人ひとりの心に入っていく、地域との交流も大切にしている。
- ・事業所独自のアイデアで、一人ひとりの写真付きの入浴順番表を作って対応している。
- ・外部評価受審のたびに明確になった指摘部分の改善に取り組んでいる。
- ・運営推進会議で検討された内容を、理念に沿い地域との交流を大切にしながら実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初より「地域と共に」「自然と共に」「その人らしく」を理念とし理念の実践に向けて日常的に教育している。	理念は家族や利用者に分かりやすいように図で示し、具体的に説明をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議等で地域の行事を教えてもらい、神楽、餅まき、敬老会等への参加。散歩で馴染みの関係が出来た近所の方が庭の花を見せてくれたり近くの喫茶店でお茶を飲んだりしている。地域の小学生が訪問して交流している。	地域の行事は運営推進会議で教えてもらい、多くの行事(お神楽・鶴崎踊り・餅まき・敬老会など)に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地区の行事などで少しずつやってはいるが、今後も出来ることから取り組んでいきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している。20回近くの会を重ねることでホームのことをより理解してもらえ、地区行事への参加の場面も増えた。	運営推進会議には地域住民や市の職員など多くの参加者があり、2ヶ月に1回開催している。会議を通じ地域とのつながりが増え、地区行事への参加も増えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらえるようになり、以前よりすこしづつ、距離が縮まっていると思う。	市の職員が運営推進会議に参加することで以前よりも距離感が縮まり、グループホームの運動会などにも参加してもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は施錠せず外出には付き添う。出来る限りの寄り添いと見守りで身体拘束をしないケアを実践している。	身体拘束や虐待防止の研修などに参加し、職員は正しく認識しており、玄関の施錠もしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常的に管理者は職員の言動に気を配り、日々のカンファレンスなどで注意をうながしている。		

事業者名:グループホーム菜の花(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が研修などで学び日頃のカンファレンスなどで話しているが、今後も職員研修など、機会があれば学んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前までは相談員が、契約とその後は管理者やホームの職員が、家族や関係者が納得いくまで、どんなことでも説明を行う。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置、苦情相談施設の案内等。それに対して話し合いの場を設けている。	意見箱の設置や苦情窓口など、利用しやすくしている。また、年に1度家族と職員の懇親会を開き、会食をしながら意見や意向を聞き、運営に反映している。「菜の花便り」を毎月発行し、個別メッセージも添えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定例会を開き、全員が自由に言える機会を設けている。	毎月1回定例会議を開き、「業務の見直し」や「利用者のケアカンファレンス」を、運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当、時間外手当の支給。勤務態勢は管理者はフリーの勤務とし柔軟に対応出来るようにしている。希望すれば講演会や研修参加、資格取得への支援をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外で開催される研修にはなるべく多くの職員が参加出来るようにしている。研修報告は勉強会を兼ねて定例会で発表し報告書は閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県の連絡会主催の講演会やレクリエーション、研修会等に参加し交流する機会をつつている。他ホームとの交流も計画中。		

事業者名:グループホーム菜の花(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に事業所を見学してもらうことからはじめ管理者が会いに行ったり遊びに来てもらったりすることを繰り返しながら関係をつくっていく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談員、ケアマネ、管理者が連携し、家族と納得いくまで話す。見学にきてもらったり、職員の話聞いてもらう。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談員、ケアマネ、管理者がし早急な対応が必要な方には、可能な限り柔軟な対応を行い場合によっては他事業所のサービスにつなげるなどの対応もしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の得意な事や出来ることを把握し、一緒にやりながら教えてもらったり、助けてもらったりもする。もし、自分だったら？自分の親だったら？を常にかんがえる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、どんな小さい事でも伝える。また、いつもと違う事があったり伝えたい事があればすぐに家族に連絡する。毎月の「菜の花便り」には、担当がそれぞれの家族に現状を詳しく報告する。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や行事、外出等で支援している。遠方でいけない方や十分でない方もあり今後も支援につとめる。	3月と9月のお彼岸時期にお寺参りをしている。また、駄菓子屋、馴染みの美容院、喫茶店などにも出向いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性について情報連携し、すべての職員が共有できるようにしている。また、日々変化することもあるので、注意深く見守るようにしている。		

事業者名:グループホーム菜の花(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連携機関の利用や面会にいく等して関係を断ち切らないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	場面、場面での会話の時の言葉をしっかり受け止め希望や意向の把握に努める。また意思疎通が困難な方には、ご家族や関係者から情報を得るようにしている。	利用者一人ひとりの思いや意向を日頃の動作などから察知し、把握に努めている。毎週2回のお茶会、ラジオ体操、毎朝コーヒーを沸かすなど、一人ひとりの意向を大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートの作成、併設施設との情報交換、家族、関係者からの情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間の情報交換、わかりやすい記録の仕方、定期的なカンファレンス等により、把握につとめている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、かかりつけ医、等の意見を反映し本人が楽しめること、好きなことを計画に盛り込む。	利用者一人ひとりの意向に沿い、「雑巾がけをする」「食事の盛り付け」「窓辺での園芸」など現状に即したケアプランを作成し、個々の部屋に「目標」を大きく掲示している。モニタリングもしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや入居者の状態変化には、個々のケア記録や独自のシート、看護記録に詳細に本人の言葉で記録し情報を共有し、それらを基に見直し、評価を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や家族の意向に配慮しながら、面会の延長や家族の外泊、受診の付き添い等、柔軟に対応している。		

事業者名:グループホーム菜の花(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議での情報交換、避難訓練時の消防署との関わり、小学校のボランティア受け入れ、地区の敬老会への参加、美容院の利用や商店での買い物など実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、本人や家族に情報提供し希望する医療が受けられる様支援している。また、ご家族と協力し通院介助を行ったり訪問診療に来てもらうケースもあり、複数の医療機関と関係を密に結んでいる。	法人の協力医の他、本人や家族が希望する病院も受診できるよう支援している。協力医の指示のもと、精神科、皮膚科、眼科などの医療も受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており常に本人の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。看護職員が居ない時間は、提携医療機関との連携も密にとれる体制が確保されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるダメージを極力防ぐため医師や看護師と相談し事業所内での対応可能な段階でなるべく早く退院出来るよう、アプローチしている。また、職員が頻繁に見舞うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う意思確認書を作成し、事業所が対応し得る最大のケアについて説明を行っている。	家族には早い段階で「重度化や終末期について」話し合いを行い、意思の確認書も交わしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	担当医の協力のもと緊急時対応の勉強会を実施し、AEDを設置するとともに勉強会を実施した。夜勤時の緊急対応について、マニュアルを整備し周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、消防署の協力を得て年2回避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方等の訓練を行っている。非常食を準備し地域の協力体制については、自治会や消防団との連絡や運営推進会議で協力を呼びかけている。	地震や火災に対して、避難訓練を年に2回、地元消防団や自治会の協力を得ながら行っている。避難経路や消火器の使い方の再確認などを行っている。また、備蓄もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会やカンファレンスの折に、職員の意識向上を図ると共に、日々の関わり方をリーダーが点検し、本人の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。	職員は、研修会やカンファレンスで、日々の関わり方を点検し、日頃の暮らしの中での言葉使いなど、誇りやプライバシーを損ねないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に合わせた声かけをし、些細な事でも本人が決める場面をつくっている。(飲み物の選択、出欠カードのシール貼り、する、しないの選択)職員の決めたことを無理強いないで複数の選択肢を提案し自分で決める場面をつくっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出や行事等本人の状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。体調に配慮しながら、その日、その時の本人の気持ちを尊重してできるだけ個別性のある支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣は本人の意向で決めており職員は見守りや支援が必要な時に手伝う。自己決定がしにくい方には、職員と一緒に考えて本人の気持ちにそった支援を心掛けてている。日頃から化粧やおしゃれを楽しみパーマや毛染めも利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼、夕食は運搬食のため調理を一緒にする機会は少ないが、おやつを一緒に作ったり、配膳や片付け等を入居者と共に、職員と入居者が同じテーブルを囲んで楽しく食事出来るよう雰囲気作りも大切にしている。	利用者が率先して食事の盛り付けを手伝ったり、片付けるなどの出番がある。献立は管理栄養士により栄養バランスやカロリーが計算され、職員と利用者が同じテーブルを囲み、楽しい雰囲気である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立の作成。食事の残食量のチェックと記録をし摂取量を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声かけを行い能力に応じて職員が見守ったり、介助を行っている。歯科医の協力で、定期検診を実施している。		

事業者名:グループホーム菜の花(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間や習慣を把握し、トイレ誘導をすることでトイレでの排泄を促している。状況の許す限りリハビリパンツやおむつの使用を減らし、布パンツに尿とりパット等で対応している。	排泄パターンに沿ってトイレ誘導をしており、出来るだけオムツをしないよう、布パンツに尿取りパットなどで対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材や乳製品を採り入れている。散歩、家事活動等身体を動かす機会を適度に設けて、自然排便が出来るよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日実施している。夜間入浴も実施してみたが昼間の入浴を希望する方が多く現在の時間となっている。仲の良い方は一緒に入ったり一人がよい方はゆっくり一人で、簡易リフトを設置したり順番表を作ったりして対応している。	毎日入浴することが出来る。事業所独自のアイデアで、一人ひとりの写真付きの入浴順番表を作って対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来る限り日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。また一人一人の体調や表情、希望等を考慮して、ゆっくり休憩がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を整理し職員が内容を把握できるようにしている。服薬時は本人に手渡し、きちんと服薬できているかの確認をしている。処方や容量の変更時や状態変化が見られるときは、詳細な記録をとり看護職員や医療機関との連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえよう、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。「よそいき療法」と銘打って本人の行きたい所や近所の喫茶店に出掛ける。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	気候の良いときは時間の許す限り散歩にでる。一人ひとりの習慣や楽しみごとに合わせて、近所の喫茶店でお茶を飲んだり、彼岸にはお寺参り等積極的に外出している。	出来るだけ戸外へ出かけられるよう取り組んでいる。近所の花壇や喫茶店でお茶を飲むなど、近隣とのふれあいの場を多く持っている。	

事業者名:グループホーム菜の花(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額のお金を自分で管理し買い物にいき自分で払う人もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人などに電話しやすい雰囲気づくりや、職員からの声かけを行うとともに、会話が他の入居者に聞こえないよう子機を使う等配慮している。家族から制限されている人もいるため考慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	調度品や、飾り付けは懐かしく感じたり、使いやすい物品を置いている。また、季節の植物や花を飾るようにしている。	居間の窓辺には、ゴーヤを植え、グリーンカーテンとなっている。畑には、季節の野菜、花などを植えている。日当たりの良いベランダは、洗濯物が干してあり、生活感がある。また、玄関、廊下などに、ソファが置かれ、くつろげる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳の間にこたつを置いたり、廊下の端に椅子を置いたり、玄関にベンチを置いたりして、くつろげるスペースづくりに取り組んでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具やタンス、鏡台等写真や思い出の品々が持ち込まれ、居心地の良さを配慮している。	一人ひとりの居室には、使い慣れた寝具やタンス、鏡、生け花、コーヒーマーカーなどが持ち込まれ、居心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「何が分かりにくいのか」「どうしたら本人の力でやっていただけるか」を追求し、状況に合わせて、環境整備に努めている。新たな混乱や失敗が生じた時は、職員で話し合い不安、混乱材料を取り除き、自立支援につなげている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470101496		
法人名	医療法人 善照会		
事業所名	グループホーム菜の花(2F)		
所在地	大分市東鶴崎3-1-6		
自己評価作成日	平成21年10月28日	評価結果市町村受理日	平成21年12月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	平成22年5月公表予定
----------	-------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成21年11月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かで落ち着いた住宅地に立地し、環境的にもとても恵まれている。母体の医療機関や老健と併設しており、緊急時の対応も万全である。開所後10年目を迎え、地域との関わりやホームの雰囲気も独自のあたたかいものが、出来きたと思う。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※1ユニット目に記載

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初より「地域と共に」「自然と共に」「その人らしく」を理念とし理念の実践に向けて日常的に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議等で地域の行事を教えてもらい、神楽、餅まき、敬老会等への参加。散歩で馴染みの関係が出来た近所の方が庭の花を見せてくれたり近くの喫茶店でお茶を飲んだりしている。地域の小学生が訪問して交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地区の行事等で少しずつやっている、職場体験の受け入れ等もしているが今後も出来ることから取り組んでいきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している。20回近くの会を重ねることでホームのことをより理解してもらえ、地区行事への参加の場面も増えた。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらえるようになり、以前よりすこしづつ、距離が縮まっていると思う。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は施錠せず外出には付き添う。出来る限りの寄り添いと見守りで身体拘束をしないケアを実践している。自覚しない拘束が行われていないか今後も確認していきたい。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常的に管理者は職員の言動に気を配り、日々のカンファレンス等で注意をうながしている。研修や勉強会も続けていきたい。		

事業者名:グループホーム菜の花(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が研修等で学び日頃のカンファレンス等で話しているが、今後も職員研修等、機会があれば学んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前までは相談員が、契約とその後は管理者やホームの職員が、家族や関係者が納得いくまで、どんなことでも説明を行う。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置、苦情相談施設の案内等。それに対して話し合いの場を設けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定例会を開き、全員が自由に言える機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当、時間外手当の支給。勤務態勢は管理者はフリーの勤務とし柔軟に対応出来るようにしている。希望すれば講演会や研修参加、資格取得への支援をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外で開催される研修にはなるべく多くの職員が参加出来るようにしている。研修報告は勉強会を兼ねて定例会で発表し報告書は閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県の連絡会主催の講演会やレクリエーション、研修会等に参加し交流する機会をつつている。他ホームとの交流も計画中。		

事業者名:グループホーム菜の花(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に事業所を見学してもらうことからはじめ管理者が会いに行ったり遊びに来てもらったりすることを繰り返しながら関係をつくっていく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談員、ケアマネ、管理者が連携し、家族と納得いくまで話す。見学にきてもらったり、職員の話聞いてもらう。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談員、ケアマネ、管理者がし早急な対応が必要な方には、可能な限り柔軟な対応を行い場合によっては他事業所のサービスにつなげるなどの対応もしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の得意な事や出来ることを把握し、一緒にやりながら教えてもらったり、助けてもらったりもする。もし、自分だったら？自分の親だったら？を常にかんがえる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、どんな小さい事でも伝える。また、いつもと違う事があったり伝えたい事があればすぐに家族に連絡する。毎月の「菜の花便り」には、担当がそれぞれの家族に現状を詳しく報告する。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や行事、外出等で支援している。遠方でいけない方や十分でない方もあり今後も支援につとめる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性について情報連携し、すべての職員が共有できるようにしている。また、日々変化することもあるので、注意深く見守るようにしている。		

事業者名:グループホーム菜の花(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連携機関の利用や面会に行く等して関係を断ち切らないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	場面、場面での会話の時の言葉をしっかり受け止め希望や意向の把握に努める。また意思疎通が困難な方には、ご家族や関係者から情報を得るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートの作成、併設施設との情報交換、家族、関係者からの情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間の情報交換、わかりやすい記録の仕方、定期的なカンファレンス等により、把握につとめている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、かかりつけ医、等の意見を反映し本人が楽しめること、好きなことを計画に盛り込む。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや入居者の状態変化には、個々のケア記録や独自のシート、看護記録に詳細に本人の言葉で記録し情報を共有し、それらを基に見直し、評価を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や家族の意向に配慮しながら、面会時間の延長や家族の外泊、受診の付き添い等対応している。		

事業者名:グループホーム菜の花(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議での情報交換、避難訓練時の消防署との関わり、小学校のボランティア受け入れ、地区の敬老会への参加、美容院の利用や商店での買い物など実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、本人や家族に情報提供し希望する医療が受けられる様支援している。また、ご家族と協力し通院介助を行ったり訪問診療に来てもらうケースもあり、複数の医療機関と関係を密に結んでいる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており常に本人の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。看護職員が居ない時間は、提携医療機関との連携も密にとれる体制が確保されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるダメージを極力防ぐため医師や看護師と相談し事業所内での対応可能な段階でなるべく早く退院出来るよう、アプローチしている。また、職員が頻繁に見舞うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う意思確認書を作成し、事業所が対応し得る最大のケアについて説明を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	担当医の協力のもと緊急時対応の勉強会を実施し、AEDを設置するとともに勉強会を実施した。夜勤時の緊急対応について、マニュアルを整備し周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、消防署の協力を得て年2回避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方等の訓練を行っている。非常食を準備し地域の協力体制については、自治会や消防団との連絡や運営推進会議で協力を呼びかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会やカンファレンスの折に、職員の意識向上を図ると共に、日々の関わり方をリーダーが点検し、本人の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に合わせた声かけをし、些細な事でも本人が決める場面をつくっている。(飲み物の選択、出欠カードのシール貼り、する、しないの選択)職員の決めたことを無理強いしないで複数の選択肢を提案し自分で決める場面をつくっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出や行事等本人の状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。体調に配慮しながら、その日、その時の本人の気持ちを尊重してできるだけ個性のある支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣は本人の意向で決めており職員は見守りや支援が必要な時に手伝う。自己決定がしにくい方には、職員と一緒に考えて本人の気持ちにそった支援を心掛けてている。日頃から化粧やおしゃれを楽しみパーマや毛染めも利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼、夕食は運搬食のため調理を一緒にする機会は少ないが、おやつを一緒に作ったり、配膳や片付け等を入居者と共に行い、職員と入居者が同じテーブルを囲んで楽しく食事出来るよう雰囲気作りも大切にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立の作成。食事の残食量のチェックと記録をし摂取量を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声かけを行い能力に応じて職員が見守ったり、介助を行っている。歯科医の協力で、定期検診を実施している。		

事業者名:グループホーム菜の花(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間や習慣を把握し、トイレ誘導をすることでトイレでの排泄を促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材や乳製品を採り入れている。散歩、家事活動等身体を動かす機会を適度に設けて、自然排便が出来るよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日実施している。夜間入浴も実施してみたが昼間の入浴を希望する方が多く現在の時間となっている。仲の良い方は一緒に入ったり一人がよい方はゆっくり一人で、簡易リフトを設置したり順番表を作ったりして対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来る限り日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。また一人一人の体調や表情、希望等を考慮して、ゆっくり休憩がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を整理し職員が内容を把握できるようにしている。服薬時は本人に手渡し、きちんと服薬できているかの確認をしている。処方や容量の変更時や状態変化が見られるときは、詳細な記録をとり看護職員や医療機関との連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるよう、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。「よそいき療法」と銘打って本人の行きたい所や近所の喫茶店に出掛ける。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良いときは時間の許す限り散歩にでる。一人ひとりの習慣や楽しみごとに合わせて、近所の喫茶店でお茶を飲んだり、彼岸にはお寺参り等積極的に外出している。		

事業者名:グループホーム菜の花(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額のお金を自分で管理し買い物にいき自分で払う人もいる。外出の時に機会を増やして行きたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	その場での入居者の希望に応じ手紙の支援や電話をしたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日々の生活の中で、五感や季節感を意識的に取り入れる工夫をしたり、畑に季節の物を植えたり、花を植えたりしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳の間にこたつを置いたり、廊下の端に椅子を置いたり、玄関にベンチを置いたりして、くつろげるスペースづくりに取り組んでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談したり協力を得て、自宅で使用したり愛用していた物を用意してもらっている。(家具、アルバム等)		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「何が分かりにくいのか」「どうしたら本人の力でやっていただけるか」を追求し、状況に合わせて、環境整備に努めている。新たな混乱や失敗が生じた時は、職員で話し合い不安、混乱材料を取り除き、自立支援につなげている。		